

江別市地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

江別市内のバス路線は、モータリゼーションの進展などにより利用者の減少が続いており多額の赤字を抱えながら運行している。赤字解消のため減便や路線廃止による運行の効率化が行われてきたが、更なる利用者の減少に繋がるなど負の連鎖が続いてきた。

このため、市では平成27年度に新たな路線の実証実験を行った。その結果、実証運行路線の方が、利用者のニーズに合致しており、既存路線が利用者のニーズを満たしていない可能性があることが認められた。

そこで、平成30年6月に「江別市地域公共交通網形成計画」及び「江別市地域公共交通再編実施計画」を策定し、既存の市内完結2路線を実証運行路線を踏襲した「野幌見晴台線」へ統合し、地域間幹線系統と接続確保を行う地域内フィーダー系統として平成30年10月1日から新たに運行を開始したものである。

生活交通確保維持改善計画の目標

地域公共交通網形成計画の目標値に基づき、以下の通り設定した

	R2
輸送人員(千人)	245
交通環境に満足している 市民割合(%)	67.1

令和2年度事業概要

【野幌見晴台線】運行事業者: 北海道中央バス株式会社、運行区間: 以下のとおり、運賃: 200円(定額)

- ・野幌見晴台線① 野幌駅北口～5丁目通(錦町先回)～野幌駅北口(循環)
- ・野幌見晴台線② 野幌駅北口～4丁目通(錦町先回)～野幌駅北口(循環)
- ・野幌見晴台線③ 野幌駅北口～5丁目通(湯川公園先回)～野幌駅北口(循環)
- ・野幌見晴台線④ 野幌駅北口～4丁目通(湯川公園先回)～野幌駅北口(循環)

地域公共交通の現況

- ・JR函館本線(大麻駅、野幌駅、高砂駅、江別駅、豊幌駅)
- ・北海道中央バス(株)
- ・ジェイ・アール北海道バス(株)
- ・夕張鉄道(株)
- ・江北地区デマンド型交通(実証運行中)
- ・スクールバス

協議会開催状況

令和2年6月8日書面送付 6月23日決議

第1回協議会(書面会議)を開催

- ・豊幌地区におけるデマンド型交通運行の意向について
- ・江別市地域内フィーダー系統確保維持計画(案)について

令和2年11月2日 第2回協議会を開催

- ・江別市地域内フィーダー系統確保維持計画の認定について
- ・江北地区、豊幌地区におけるデマンド型交通について

令和3年1月8日

地域内フィーダー系統確保維持計画につき協議会委員持ち回りで事業評価を実施

令和2年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

- ・新規転入者へバスマップ及びバス乗り方ガイドを配布することで、転入時に市内のバス路線の現状を周知する。
- ・広報誌を用いた、バス利用促進の為に特集記事を掲載することで、市民にバスを身近な存在として感じてもらう。
- ・HPを用いた、時刻表変更等をはじめとする路線関連情報を積極的に発信し、関連した情報の最新化を図る。

2) 運行系統

野幌見晴台線①③

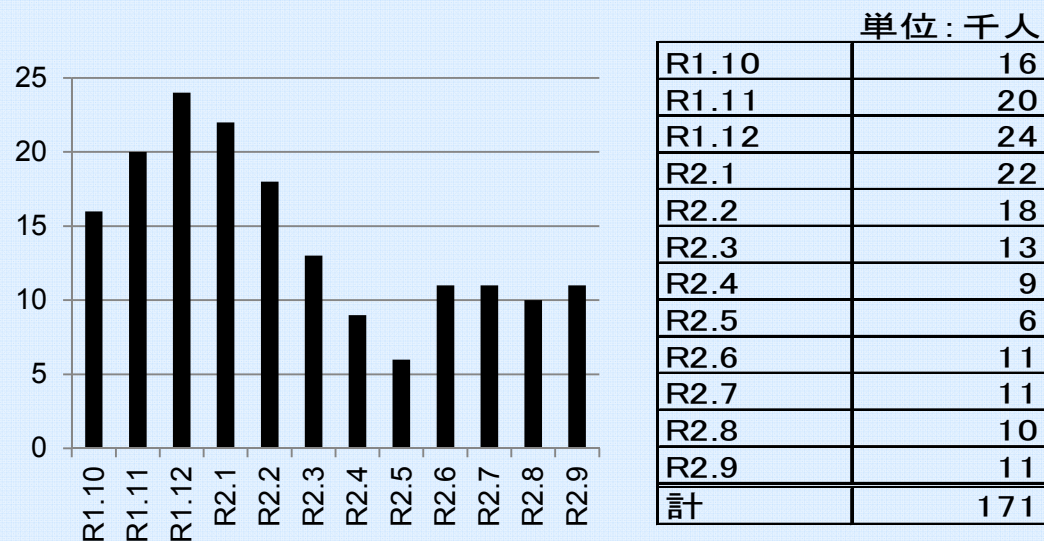
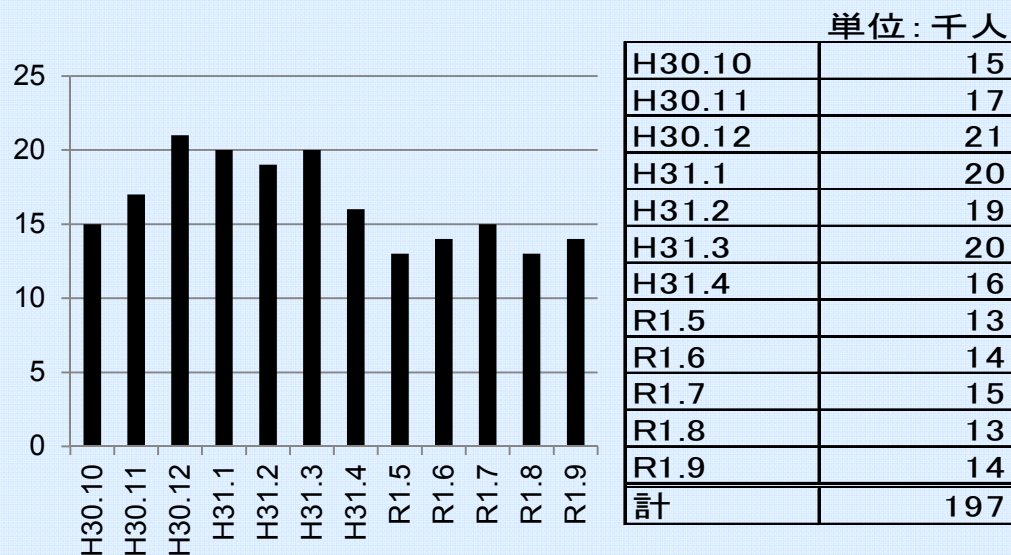


野幌見晴台線②④



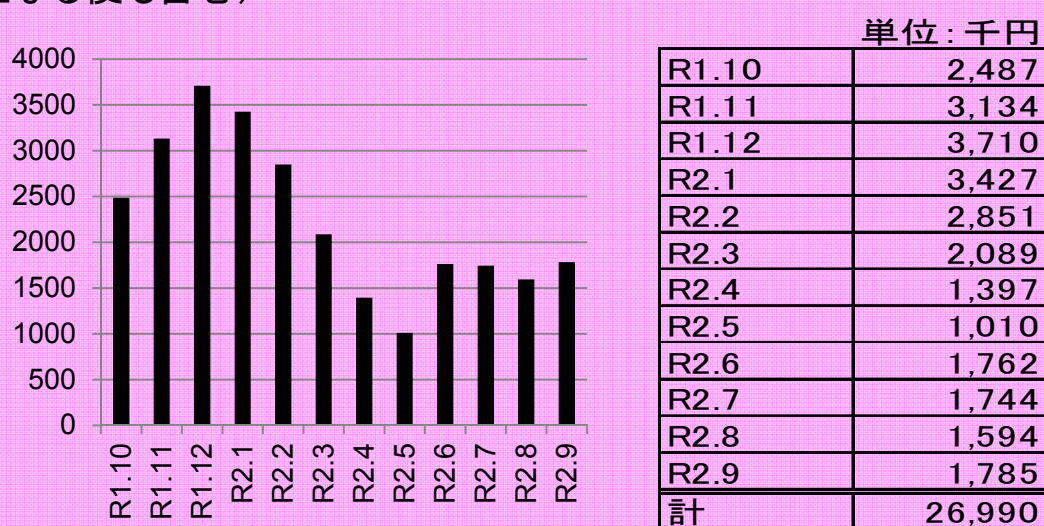
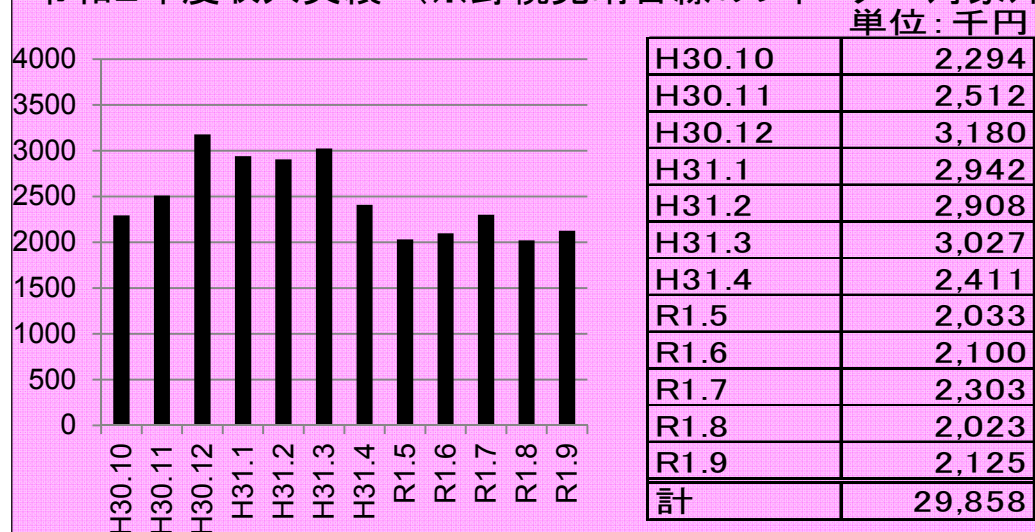
3) 利用実績

令和2年度利用実績（※野幌見晴台線のフィーダー対象外となる便も含む）



4) 収入実績

令和2年度収入実績（※野幌見晴台線のフィーダー対象外となる便も含む）



5)事業実施の適切性

計画通り事業は適切に実施された。

6)目標・効果達成状況

計画申請時の目標

①輸送人員:245千人／年間

②交通環境に満足している 市民割合:67.1%

結果として①は171千人②は66.6%であり目標値を達成できなかった。大きな要因としては、新型コロナウイルスの感染拡大による交通需要の大きな減少が挙げられる。しかし、感染が流行の兆しを見せる前である、R元.10～R2.1においては前年度の利用実績を1割以上上回っており、新規路線の周知により利用が増加したと認められる。

また、②については前年度の63.6%から3ポイント上昇しており、交通環境に満足している市民が増加したことを示している。

7)事業の今後の改善点

引き続き、よりいっそうのバス路線の周知活動を行い、新型コロナウイルスにより落ち込んだ需要の回復を図る。また対象路線の利用状況を調査したうえで、当市において必要なバス路線を維持するため、PDCAサイクルを実施する。

8)地方運輸局における二次評価結果

(令和3年度分と併せて評価)